

124: A85.

2) Yonemoto N, Yokoyama H, Nagao K, Kimura T, Nonogi H, JCS-ReSS group. The Impact of Bystander CPR on Defibrillation-Survival curve in Out-of-hospital Cardiac Arrest From All-Japan Utstein Registry Data. *Circulation*.2011; 124: A18041.

### Ⅲ. 市民公開講座

# 心臓発作：心臓発作の警告症状を学ぶ

## 心臓発作から身を守るために

心臓発作が生じたときに、時間の遅れなく119番通報しましょう。  
専門病院で治療を受けられ、突然死にならずに、又後遺症も少なく済みます。  
24時間365日、いつでもどこでも誰でも専門的な治療が受けられることが  
私たちの願いです。これらの対策について、専門家からわかりやすく解説をいただきます。  
また、会場には警告症状のビデオ放映や応急処置やAEDの使い方を体験できるコーナーを  
設けて、いざというときに大切な方を救うための方策を学んでいただけます。

**日時：平成23年10月29日（土）14時～16時**

**会場：千里朝日阪急ビル4階 A&Hホール**

大阪モノレール 千里中央駅 徒歩1分

【講演】総合司会 国立循環器病研究センター 野々木 宏

1. 早期受診がなぜ必要か

座長 帝京大学医学部救急医学講座 坂本 哲也

講演 横浜市立大学附属市民総合医療センター

高度救命救急センター 田原 良雄

2. ビデオで警告症状を学ぶ

解説 国立循環器病研究センター 横山 広行

呈示 国立精神・神経医療研究センター 米本 直裕

国立循環器病研究センター 嘉田 晃子

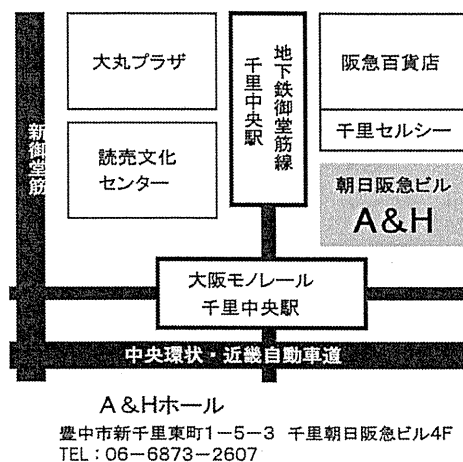
**AEDと簡単な心肺蘇生法体験コーナーもあります。**

主催：国立循環器病研究センター  
厚生労働科学研究班（J-PULSE III）  
共催：財団法人循環器病研究振興財団  
社団法人大阪エイフボランティアネットワーク吹田支部  
吹田母子会

※申し込み不要

＜お問い合わせ・連絡先＞  
国立循環器病研究センター  
J-PULSE 事務局 林 久美子  
〒565-8565  
大阪府吹田市藤白台5丁目7番1号  
TEL:06-6833-5012(代表)

**J-PULSE** <http://j-pulse.umin.jp/>



## 市民公開講座

### 心臓発作：心臓発作の警告症状を学ぶ

2011年10月29日(土)

**会場** 市民公開講座：千里朝日阪急ビル4階 A&Hホール

開場 13:00

講演 14:00～16:00

(AED体験) 16:00～17:00

☆☆

### 市民公開講座

A & Hホール開場 (AED体験等) 13:00 - 14:00

ロビーに2台のマネキンとAEDトレナーを設置し、吹田母子会と共同で市民参加者へ実地説明を行った。

開会あいさつ 野々木 宏 先生 14:00 - 14:10

厚生労働科研の班研究の趣旨を説明し、心臓発作の理解と早く受診する重要性について講演してもらうこととお話した。

【講演】 14:10 - 14:40

#### 1. 早期受診がなぜ重要か

座長 帝京大学医学部救急医学講座 坂本 哲也

講演 横浜市立大学附属市民総合医療センター 田原 良雄

心臓発作(心筋梗塞)がなぜ生じ、いかに早く治療をすることが大切か動画をを使用してわかりやすく解説された。また、横浜市と吹田市で取り組んでいる12誘導心電図伝送の有用性についても強調された。

☆AED体験等 14:40 - 15:00

休み時間を利用して、多くの方がCPRとAEDを体験した。

#### 2. ビデオで警告症状を学ぶ 15:00 - 15:45

解説 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 横山広行

呈示 国立精神・神経医療研究センター 米本直裕  
国立循環器病研究センター 嘉田晃子

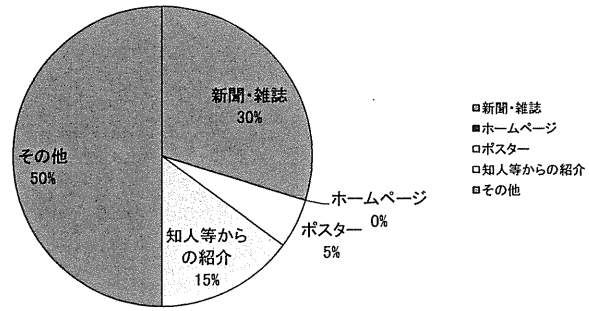
研究班で作成した心筋梗塞の警告症状のビデオを見て、心筋梗塞の症状と119番通報の必要性について、100台のアナライザーを用いて、双方向性の質問と回答で、会場で即時に解析して、ビデオ視聴の前後でどのように救急意識が変化するか観察した。心筋梗塞の典型的な症状と非典型的な症状で、心臓発作と判断する率は、ビデオ後に非典型的な症状で上昇し、また119番通報を行う率が上がり、ビデオでの啓発に効果があることがわかった。

閉会あいさつ 野々木先生

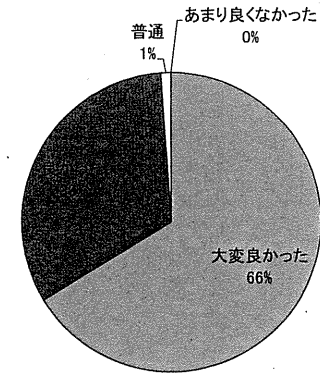
15:45 - 15:50

啓発のパンフレットとホームページを紹介し、さらに啓発に向けてお願いをして終了した。

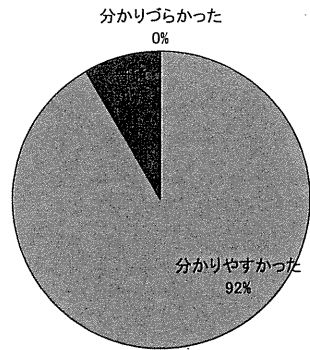
今回の発表会(講演会)を何で知りましたか



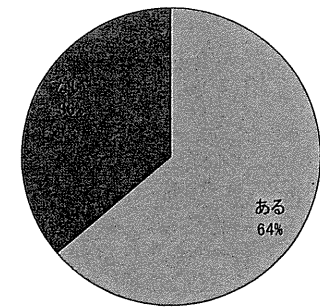
今回の発表会(講演会)はいかがでしたか



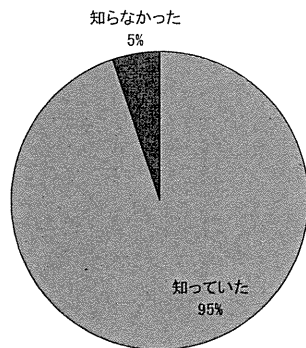
発表内容はいかがでしたか



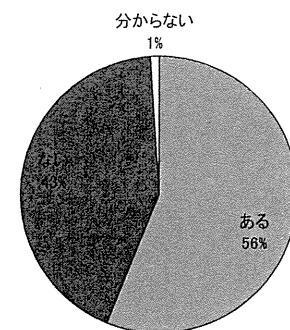
心肺蘇生法を習ったことがありますか



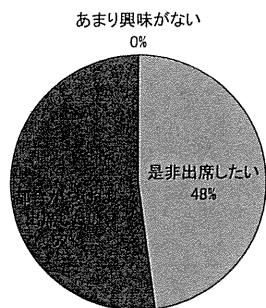
AEDをご存知でしたか



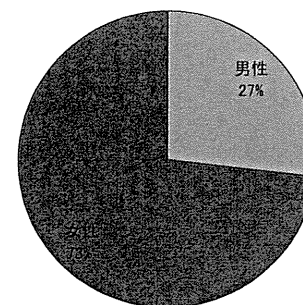
心筋梗塞や脳卒中にかかった方がいらっしゃいますか？



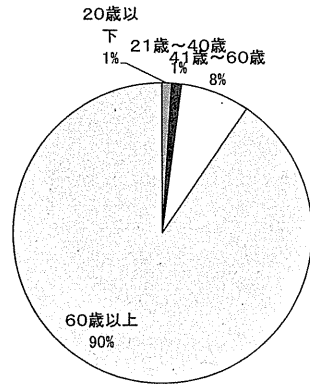
またこのような発表会(講演会)に出席したいと思いますか



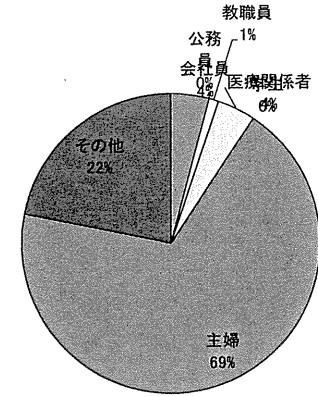
あなたの性別をお聞かせください



あなたの年齢をお聞かせください



あなたの職業等をお聞かせください





今回の発表会(講演会)を何で知りましたか。

	新聞・雑誌	ホームページ	ポスター	知人等からの紹介	その他
人数	28	0	5	14	47

今回の発表会(講演会)はいかがでしたか。

	大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった
人数	61	30	1	0

発表内容はいかがでしたか。

	分かりやすかった	普通	分かりづらかった
人数	87	8	0

心肺蘇生法を習ったことがありますか。

	ある	ない
人数	60	34

AEDをご存知でしたか。

	知っていた	知らなかつ
人数	92	5

あなた、あるいは身内の方に心筋梗塞や脳卒中にかかった方がいらっしゃいますか？

	ある	ない	分からない
人数	55	42	1

またこのような発表会(講演会)に出席したいと思いますか。

	是非出席したい	都合がつけば出席した	あまり興味がない
人数	44	48	0

あなたの性別をお聞かせください。

	男性	女性
人数	25	68

あなたの年齢をお聞かせください。

	20歳以下	21歳～40歳	41歳～60歳	60歳以上
人数	1	1	7	85

あなたの職業等をお聞かせください。

	会社員	公務員	教職員	医療関係者	学生	主婦	その他
人数	4	0	1	4	0	66	21

研究成果等普及啓発事業  
発表会(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究)

## 開催結果報告書

### 1、発表会開催者

所属・職名 : 国立循環器病研究センター心臓血管内科 客員部長  
氏 名 : 野々木 宏

2、開催日時 平成 23 年 10 月 29 日(土) 午後2 時～午後5 時

### 3、開催場所

名 称 : 千里朝日阪急ビル A&H ホール  
所 在 地 : 大阪府豊中市

4、参加者数 95 人

5、発表テーマ 心臓発作：心臓発作の警告症状を学ぶ

### 6、発表内容

1. 早期受診がなぜ重要か 研究協力者 横浜市大救命救急センター 田原 良雄  
心臓発作(心筋梗塞)がなぜ生じ、いかに早く治療をすることが大切か動画を使用してわかりやすく解説された。また、横浜市と吹田市で取り組んでいる12誘導心電図伝送の有用性についても強調された。
2. ビデオで警告症状を学ぶ 班員 国立循環器病研究センター 横山 広行  
研究班で作成した心筋梗塞の警告症状のビデオを見て、心筋梗塞の症状と119番通報の必要性について、100台のアナライザーを用いて、双方向性の質問と回答で、会場で即時に解析して、ビデオ視聴の前後でどのように救急意識が変化するか観察した。
3. AEDと心肺蘇生法の実習 会場ホールでマネキンとパンフレットを使用して、AEDの使い方と胸骨圧迫の方法の実習を行い、AEDの扱い方が理解できたと好評であった。

### 7、発表会の成果

心筋梗塞の典型的な症状と非典型的な症状で、ビデオ視聴後に非典型的な症状に対して、心臓発作と判断する率が上昇し、また119番通報を行うとした率が上がり、ビデオでの啓発に効果があることがわかった。今後、ビデオのホームページでの公開、携帯端末等による公開など啓発推進に対して、貴重な成果が得られたと思われる。今後も双方向性の市民参加型の発表会が有効と思われる。

## IV. 班會議

第 1 回 班 会 議 資 料

開催日 2011 年 6 月 13 日

厚生労働科学研究

野々木班 平成 23 年度第 1 回班会議

[開催日時] 平成 23 年 6 月 13 日(月) 12 時～15 時

氏名	所属
野々木 宏	国立循環器病研究センター 心臓血管内科
笠岡 俊志	山口大学大学院医学系研究科 救急・生体侵襲制御医学 救命救急医療 (高度救命救急センター)
長谷 守	札幌医科大学医学部
松崎 真和	日本大学医学部 駿河台日本大学病院循環器科
坂本 哲也	帝京大学医学部 救急医学・蘇生学
横山 広行	国立循環器病研究センター 心臓血管内科
木村 一雄 (代理 田原良雄)	横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター
住吉 徹哉 (代理 桃原哲也)	榊原記念病院 循環器内科
嘉田 晃子	国立循環器病研究センター研究開発基盤センター 先進医療・治験推進部
米本 直裕	国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター
小川 久雄 (代理 小島淳)	熊本大学大学院 医学薬学研究部 循環器病態学

(順不同・敬称略)

厚生労働科学研究 平成23年度 第1回班会議議事録 2011.06.13

急性心筋梗塞に対する病院前救護や遠隔医療等を含めた  
超急性期診療体制の構築に関する研究

場所：国立循環器病研究センター

時間：12時～15時

時間	発表者	内容	(分)
12:00 - 12:10	野々木 宏	開会挨拶と研究概説、啓発用ビデオ説明と配布	0:10
12:10 - 13:50	横山/野々木/全員	急性心筋梗塞症に対する発症からの時間遅延： データベース構築 IRB提出用計画書、スライド、データ項目票検討 1. 対象をSTEMIとNSTEMIとして、診断を国際勧告通り高感度トロポニンを使用 2. 心電図収集は不要とする。項目でSTEMIあるいはNSTEMIを明確（後壁梗塞はV1,2でST低下）、救急隊の12誘導心電図の有り無しで良い 長谷先生から、必要なら事前に決定希望（検討の結果、解析に今回は不要）。 3. 119番通報を最初の医療機関受診時（救急車の使用の有無）に使用すればわかるようにする、転院搬送と区別する できるだけ最初の医療機関受診時間を聞き取る 4. 搬送手段：ドクターカーとドクターヘリは別途解析できるように区別する、ドクターヘリは順天堂伊豆病院と日医大北総病院に依頼する、山口大学や獨協医大と連携して調査する 5. 入力システムの調査をして、既存データベースと整合性が付くと良い（アンケート入力済み）	1:40
13:50 - 14:20	田原・桃原・小島・笠岡	搬送状況個別研究報告 田原：横浜市消防本部と循環器救急病院における搬送状況、12誘導心電図使用が増加、ただしまだ生かし切れていない（他病院） 桃原：CCUネットワークの搬送状況、発症から2時間以内が高率 小島：熊本県における搬送状況、遠距離地域がある、ヘリ搬送は始まった。市内はドクターカーが4病院 笠岡：ドクターヘリと地域救急車との連携が始まった（途中でランデブー）	0:30
14:20 - 14:35	米本/嘉田/野々木	死亡統計と搬送時間の関係：MAP解析の報告、結果を検討する上で、搬送の工夫（ドクターヘリなど）をするか集約化を提言するかを検討が必要、前者が良い鳴しれない（坂本Dr）。ドクターヘリの守備範囲（50km圏内）をプロットすれば良いのでは。	0:15
14:35 - 14:50	野々木/松崎/横山 全員	最重症例への対応：心原性心停止に対する低体温療法の無作為試験の報告、帝京大学が参画 安全委員会：小川、住吉、安田先生へ依頼	0:15
14:50 - 15:00	全員	まとめ	0:10

3:00

## 横浜市における新たな心疾患の救急医療体制

横浜心疾患研究会：  
新たな心疾患救急医療体制の開始に伴う  
患者治療実績の収集、分析等を行う研究会

横浜心疾患研究会  
田原良雄

## 目的

- 横浜市における急性心筋梗塞のデータを集積し分析することで横浜市の治療レベルの向上を目指す。
- 救急隊と連携した心筋梗塞症治療システムを横浜から発信する。

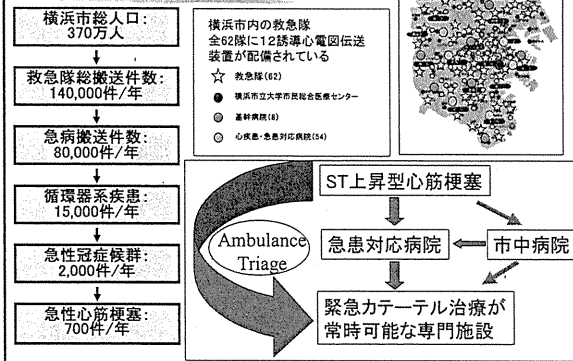


## 背景

- 横浜市は、人口367万人を擁する日本第二の都市である。
- 全救急車(62隊)が12誘導心電図を搭載している日本唯一の都市である。

横浜市民への治療レベル向上が責務

## 横浜市における12誘導心電図伝送システム








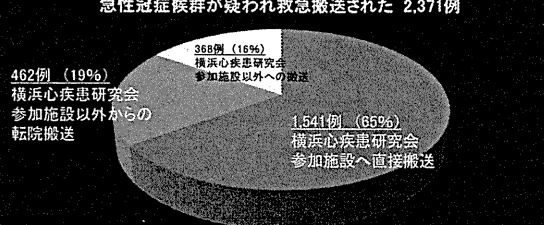
### データについて

- データ入力の対象は、横浜市の救急隊が搬送した発症24時間以内の急性心筋梗塞患者とする。
- 急性心筋梗塞の定義は、施設のCK正常上限値の2倍を超えたものとする。
- データ入力は、5月10日から開始。
- その他：
  - 初年度の対象症例は、救急隊が搬送した急性心筋梗塞に限定したが、今後は、東京都CCUネットワークに準じて対象症例を拡大することを来年度以降に検討する。
  - 心肺停止症例は除く。



### 横浜心疾患研究会参加施設への搬送状況

急性冠症候群が疑われ救急搬送された 2,371例



搬送先	例数	割合
横浜心疾患研究会参加施設以外からの転院搬送	462例	19%
横浜心疾患研究会参加施設へ直接搬送	1,541例	65%
横浜心疾患研究会参加施設以外への搬送	368例	16%

2010年5月から2011年4月まで  
急性冠症候群が疑われ横浜救急隊により  
救急搬送された2,371例

